

# ひ孫が語る『栄一像』と 未来へつなげる『栄一スピリット』

渋沢栄一翁ひ孫

## 渋沢雅英 鳥羽博道

(株)ドトールコーヒー名誉会長

深谷市長

## 小島進



郷土の偉人渋沢栄一翁が肖像となる新一万円札の発行が、令和6年に予定されています。新紙幣発行に向けて今年ますます注目されるであろう栄一翁について、小島市長と、栄一翁のひ孫にあたる渋沢雅英氏、深谷出身の実業家である鳥羽博道氏の三者が、栄一翁にゆかりのある帝国ホテル東京で語り合いました。会場には『渋沢栄一アンドロイド』も登場し、ひ孫の雅英氏と初対面しました。

大河ドラマや新紙幣で全国から注目される栄一翁

栄一翁が大切にしていた『自分だけでなくみんながうれしいのが一番』という考え方が私の仕事の根底にあります



深谷市長 小島進

小島市長 本日は、栄一翁が初代会長を務めた帝国ホテルで、このように雅英さんと鳥羽さんとお話ができ、とても光栄です。お二人ともいろいろな場で活躍されていますが、おいくつになられましたか。

渋沢氏 私は97歳になりました。鳥羽氏 お元気でしっかりされていますよね。私は85歳になったのですが、何とか95歳まで生きたいと思っています。確か栄一翁は91歳までご存命だったので、それよりも

長寿な雅英さんはすごいですね。小島市長 そうですよね。お二人が元気で活躍している姿を見ると私も力をもらえます。今日はよろしくお願ひします。

まずお伺いしたいのですが、お二人は栄一翁が新一万円札の肖像に決まった時はどう思いましたか。

渋沢氏 私は身内として栄一のことを聞いて育ったものですが、やっぱり『さうか』という感じでした。鳥羽氏 栄一翁は、江戸時代から明治時代に変わる近代日本の礎をつくったかたなので、その働きが

んがありましたよね。

渋沢氏 あれはいい言葉ですね。

小島市長 私は市長として仕事をする時に、それが自分の根底にあって、『栄一翁ならどう言っ

どう行動するだろう』と考えるながらやっているんです。鳥羽氏 なるほど。そうなんです

栄一翁のひ孫が語る曾祖父『渋沢栄一』の姿

小島市長 雅英さんから、ひいおじいさんである栄一翁とのエピソードなどをお聞かせいただけま

すが。渋沢氏 栄一は私が6歳の時に亡くなっていて、なかなか記憶に残っていないんですよ。唯一覚えてるのはお葬式の記憶です。小島市長 そうなんです。渋沢氏 棺を乗せた車などが自宅のある飛鳥山から、斎場のある青山まで列となって走ったのですが、その車に私は乗っていません。まだ6歳の頃なので何のことかよく分からなかったのですが、沿道がたくさんの人で埋まっていたので、栄一はよほどすごい人だったんだろつと、幼いながらに思

父敬三がまとめた栄一の伝記資料に大変感心しまして、それ以来ずっと栄一のファンです



公益財団法人 渋沢栄一記念財団 相談役 渋沢雅英

1925年生まれ(97歳)。曾祖父は栄一翁。父親は日本銀行総裁や大蔵大臣などを歴任した渋沢敬三氏。著書に大河ドラマ『青天を衝け』の参考資料に用いられた『太平洋にかけの橋 渋沢栄一の生涯』など。

栄一翁が生涯実践した論語の『仁』である『思いやり』を子どもたちにも伝えていきたいですね



株式会社 ドトールコーヒー 鳥羽博道 名誉会長

1937年生まれ(85歳)。深谷市出身。1962年にドトールコーヒーを創業。2021年には優れた企業経営と社会への貢献を実践している経営者を表彰する『渋沢栄一賞』を受賞。深谷市へ『渋沢栄一アンドロイド』の開発費用などを寄附。



ました。  
**小島市長** それは貴重なエピソードですね。  
**渋沢氏** ただ、その年は満州事変が起こり、10年後には真珠湾攻撃だったので、『米一があれだけ日本を良くするために働いたのは、何のためだったのだろう』と子ども頃はよく思っていました。日本が戦争で負けて、国や家も失いめちゃくちやてしたから、米一をあまり尊敬していなかった時もありますね。  
**小島市長** そんな時期もあったのですか。  
**渋沢氏** はい。でも、日本がまた復興しはじめると、『やっぱり米

一は偉かったんだな』という意識がだんだん戻ってきました。私の父敬三が米一の伝記資料をまとめたのですが、それを読み大変感心しまして、それ以来ずっと米一のファンです。  
**小島市長** 父親である敬三さんにとって、米一翁はどんな存在だったのでしょうか。  
**渋沢氏** 父は、財界人としても学者としても利口な人で、彼にとって祖父である米一をすごく尊敬していました。

**小島市長** そうだったんですか。  
**渋沢氏** 父は『米一にはかなわない』という感じて話をしていました。また、米一のことを『真剣勝負をした人だ』とよく言っていましたね。

**小島市長** 敬三さんは本当に米一翁をリスペクトしていたんですね。  
**渋沢氏** 父は米一からかわいがられていたように、よくウナギの店に連れて行ってもらったみたいです。

**小島市長** そうですか。米一翁はその時代のおいしい物もいろいろ食べていたはずですね。それにもかかわらず、地元深谷に戻った際は、煮ほうじつが大好きだと言っていました。

**鳥羽氏** いやいや、米一翁とは次元が違いますよ。  
**小島市長** 共通していると思えますよ。  
**鳥羽氏** それと米一翁は、本当に私利私欲なく、国家のためということを貫き通したとすごく誇りに思っています。

おわかりして食べてくれたみたいなので、それがうれいです。

**米一翁の根底にあったのは論議の『土』(思いやり)』**

**小島市長** 鳥羽さんは実業家として活躍されてきて、米一翁にはどういった思いをお持ちですか。  
**鳥羽氏** 思いなんて言葉で簡単に言えるものではないですが、米一翁の功績で一番驚くのは、幕末にヨーロッパに渡り、短い期間で銀行のシステムなどあらゆるものを見て、それを日本に再現してきたことです。

**小島市長** そうですよ。鳥羽さんも若い頃に、外国でサラリーマンが朝にコーヒーを飲む姿を見て、日本の喫茶店を変えようというひらめきがあったと聞きましたが、米一翁と重なるところがありますよね。  
**鳥羽氏** いやいや、米一翁とは次元が違いますよ。

**小島市長** 共通していると思えますよ。  
**鳥羽氏** それと米一翁は、本当に私利私欲なく、国家のためという

いつも感心しています。  
**渋沢氏** 米一は、割と人から嫌われていないですよ。  
**鳥羽氏** 嫌われていなかったということも、米一翁が小さい頃から論語を学んで、体に染み付いていたからだと私は思います。  
 米一翁は、論語の中でも『仁』が一番大事だと言っています。つまり、すべての行動はいわゆる『思いやり』なんです。『思いやり』で行動すると、敵をつくるということはないと思っただいですよ。

**『渋沢米一アントロイド』のよみがえる在りついで米一翁**

**小島市長** 本日この会場にも来ている『渋沢米一アントロイド』ですが、鳥羽さんから寄附をいただいたからこそ実現しました。鳥羽さんは世間が米一翁に注目する前からこの話をしていましたよね。  
**鳥羽氏** そうですね。観光で深谷に来る多くの人の記憶に、米一翁を残す方法はなんだろうと思った時に『アントロイド』が思い当たりました。

**小島市長** その発想がすごいです。二人はどんな期待をお持ちですか。  
**渋沢氏** 今までのお札の肖像の皆さんも、日本のさまざま分野で活躍された立派な方です。米一がその仲間に入るのとはとてもいい思っているんです。『喧嘩するのではなく、みんなで協力して新しい国をつくりましょう』という意味がお札に込められているのがうなずかして。

て皆さんに残っていくのだと思います。これだけのものがこぎつて非常に感動しています。  
**小島市長** ひ孫である雅英さんにそう言っただけのとおりがたいです。鳥羽さん、うれいですね。  
**鳥羽氏** うれいです。

**「ふるさと深谷へ寄せる期待」郷土愛**

**小島市長** 鳥羽さんは深谷出身というところで、深谷への思いを教えてくださいいただけますか。  
**鳥羽氏** 深谷での記憶といえば、登校の時に赤城おろしの風が冷たかったのが印象強いですね。

また、これからの深谷の発展には、最近整備されたアウトレットなどが鍵になると思います。人々が深谷に行ってみたいと思うような、楽しい深谷にしていきたいですね。  
**小島市長** ありがとうございます。雅英さん、米一翁は深谷にどんな思いを持っていたのでしょうか。  
**渋沢氏** 米一は深谷にいた若い頃、いろんな人が独立心を持って将来の夢などを語り、深谷という

ものアイデンティティーを感じていたと思います。そこからずいぶん無茶苦茶なことをやりましたが、結果として非常に大きな事を成し遂げました。そういう独立心を持ってみんなが夢を語る深谷になってほしいと、米一は言っていました。

**新紙幣を通して全国に伝えるたい米一翁の思い**

**小島市長** 最後に、米一翁が新紙幣の肖像になることに対して、お

**小島市長** なるほど。すごく心に響きました。米一翁は一年の最初に、血洗島の獅子舞の日を、スケジュールに入れてくれたいたすごいです。そんなところからも、非常に故郷を思ってくれていたんだと感じました。  
**渋沢氏** そうですね。  
**小島市長** 私は、子どもたちには、深谷にどうやることなく日本や世界を相手にやりたいことをどんどんやって、自分の夢を実現していくってほしいと思います。心のどこかに故郷への愛を持っていたらいいなと思います。  
**小島市長** 私は、子どもたちには、深谷にどうやることなく日本や世界を相手にやりたいことをどんどんやって、自分の夢を実現していくってほしいと思います。心のどこかに故郷への愛を持っていたらいいなと思います。

本日はどうもありがとうございました。お二人とも体に気をつけて、これからも活躍ください。  
**渋沢氏・鳥羽氏** ありがとうございます。